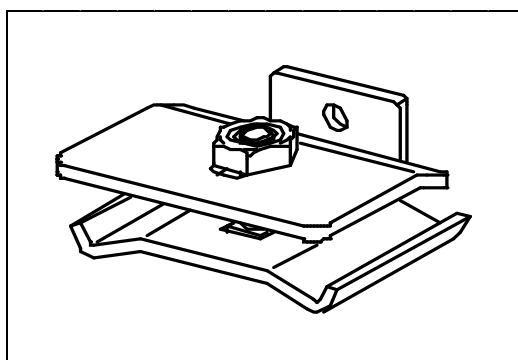




# 試験成績書



製品名 : RP-Wクリップ  
試験項目 : クリップの接合部の衝撃試験

本試験は、国土交通省告示第791号 第3第3項一号に規定される天井材の緊結において平成28年基準(隙間なし天井の新基準)の逐条解説に示されている試験方法に準じて実施しております。

株式会社 桐井製作所

開発部 開発グループ

〒100-6605

東京都千代田区丸の内 1-9-2

グラントウキョウサウスタワー 5階

作成日 : 2016/11/15

作成者 : 武井 将志

Tel : 03-4345-6005

Fax : 03-6895-0220

検印	作成
下氏	武井

# ◇試験概要

品名	RP-Wクリップ		
試験項目	野縁(背)方向		接合部の衝撃試験
測定間隔	2000Hz(0.0005s)		
試験装置	全体質量		4.9kg
	加撃体	質量	0.9kg
		落下高さ	600mm
試験体	使用部材	野縁	CW-19
		野縁受け	CC-19
		クリップ	RP-Wクリップ
	寸法	300mm×550mm	
試験方法	試験は以下に示す方法によって行う。		
	① 野縁(背)方向について、加撃体による衝撃力を試験体に加える。 ② 野縁(背)方向についてクリップの接合部に生じた残留変位Dcsを計測するとともに、試験体の損傷の有無および程度を確認、記録する。		
評価方法	すべての試験体で、クリップの接合部に生じた残留変位Dcsが設定した閾値(5mm)を超えず、かつ、試験体に顕著な損傷を生じていない場合に、対象とするクリップの接合部は緊結であると評価する。		

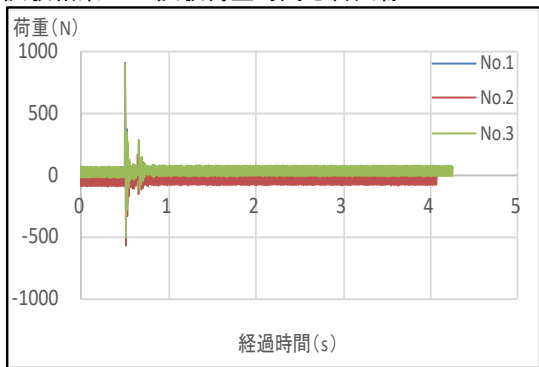
試験前状況(試験装置全景)



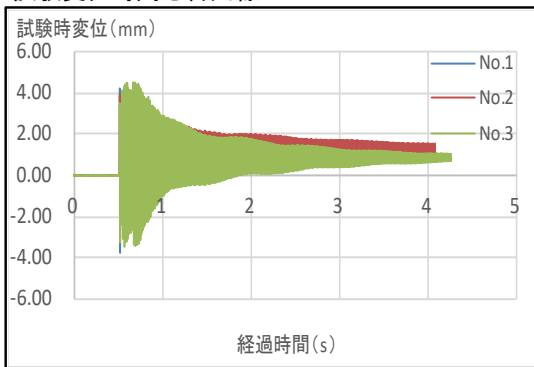
試験前状況(試験体全景)



# ◇試験結果 試験荷重時間応答曲線



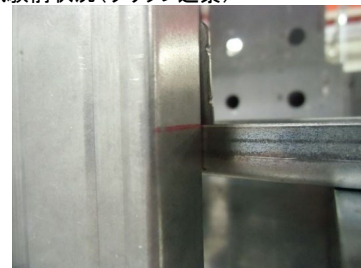
# 試験変位時間応答曲線



# 結果一覧

	No.1	No.2	No.3
最大荷重	912N	828N	904N
残留変位	0.98mm	1.22mm	0.88mm

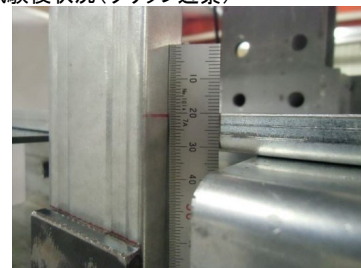
試験前状況(クリップ近景)



∴ 全ての試験体において残留変位Dcsが5mm以下

➡ RP-Wクリップの接合部は緊結であると評価する。

試験後状況(クリップ近景)



試験日 : 2016/11/11  
試験者 : 日吉 英雄

検印	作成
下氏	武井

# ◇試験概要

品名	RP-Wクリップ		
試験項目	野縁(腹)方向		接合部の衝撃試験
測定間隔	2000Hz(0.0005s)		
試験装置	全体質量		4.90kg
	加撃体	質量	0.90kg
		落下高さ	600mm
試験体	使用部材	野縁	CW-19
		野縁受け	CC-19
		クリップ	RP-Wクリップ
	寸法	300mm×550mm	
試験方法	試験は以下に示す方法によって行う。		
	① 野縁(腹)方向について、加撃体による衝撃力を試験体に加える。 ② 野縁(腹)方向についてクリップの接合部に生じた残留変位Dcsを計測するとともに、試験体の損傷の有無および程度を確認、記録する。		
評価方法	すべての試験体で、クリップの接合部に生じた残留変位Dcsが設定した閾値(5mm)を超えず、かつ、試験体に顕著な損傷を生じていない場合に、対象とするクリップの接合部は緊結であると評価する。		

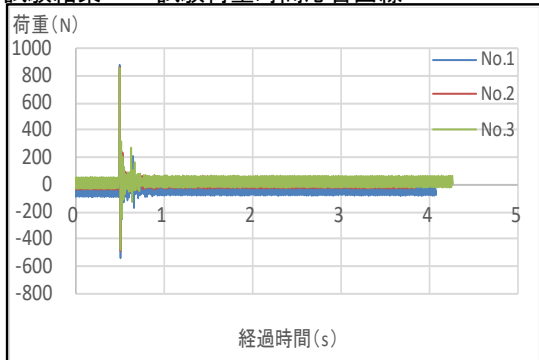
試験前状況(試験装置全景)



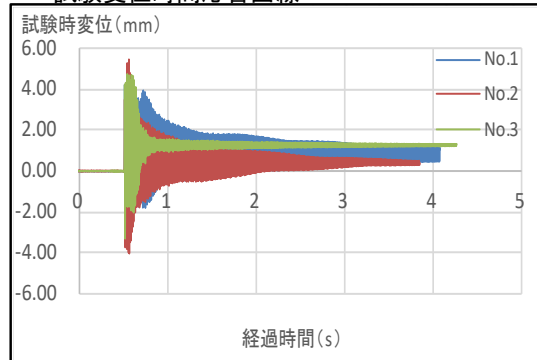
試験前状況(試験体全景)



# ◇試験結果 試験荷重時間応答曲線



試験変位時間応答曲線



# 結果一覧

	No.1	No.2	No.3
最大荷重	881N	864N	858N
残留変位	0.82mm	0.40mm	1.28mm

試験前状況(クリップ近景)



∴ 全ての試験体において残留変位Dcsが5mm以下

➡ RP-Wクリップの接合部は緊結であると評価する。

試験後状況(クリップ近景)



試験日 : 2016/11/11  
試験者 : 日吉 英雄

検印	作成
下氏	武井

# ◇試験概要

品名	RP-Wクリップ		
試験項目	野縁受け方向		接合部の衝撃試験
測定間隔	2000Hz(0.0005s)		
試験装置	全体質量		4.9kg
	加撃体	質量	0.9kg
		落下高さ	600mm
試験体	使用部材	野縁	CW-19
		野縁受け	CC-19
		クリップ	RP-Wクリップ
	寸法	300mm×550mm	
試験方法	試験は以下に示す方法によって行う。		
	① 野縁受け方向について、加撃体による衝撃力を試験体に加える。 ② 野縁受け方向についてクリップの接合部に生じた残留変位Dcsを計測するとともに、試験体の損傷の有無および程度を確認、記録する。		
評価方法	すべての試験体で、クリップの接合部に生じた残留変位Dcsが設定した閾値(5mm)を超えず、かつ、試験体に顕著な損傷を生じていない場合に、対象とするクリップの接合部は緊結であると評価する。		

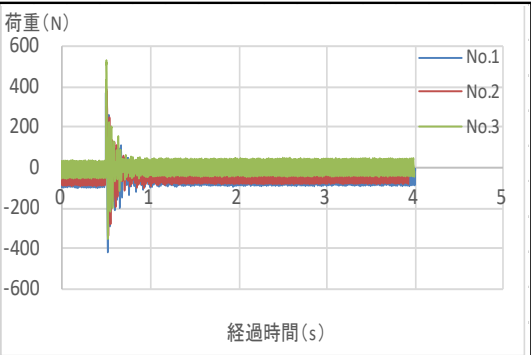
試験前状況(試験装置全景)



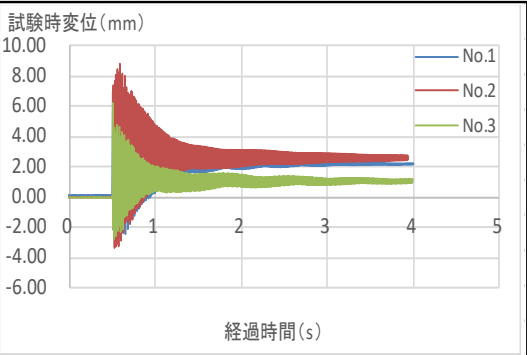
試験前状況(試験体全景)



## ◇試験結果 試験荷重時間応答曲線



## 試験変位時間応答曲線



## 結果一覧

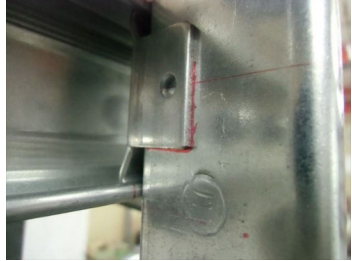
	No.1	No.2	No.3
最大荷重	384N	390N	532N
残留変位	2.18mm	2.59mm	1.04mm

∴ 全ての試験体において残留変位Dcsが5mm以下

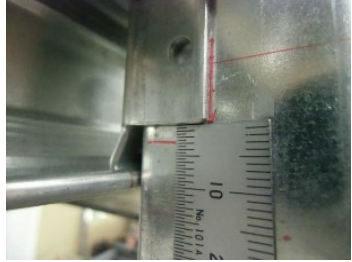


RP-Wクリップの接合部は緊結であると評価する。

試験前状況(クリップ近景)



試験後状況(クリップ近景)



試験日 : 2016/11/10  
試験者 : 日吉 英雄

検印	作成
下氏	武井

# ◇試験概要

品名	RP-Wクリップ		
試験項目	天井面法線方向		接合部の衝撃試験
測定間隔	2000Hz (0.0005s)		
試験装置	全体質量		24.9kg
	加撃体	質量	12.4kg
		落下高さ	400mm
試験体	使用部材	野縁	CW-19
		野縁受け	CC-19
		クリップ	RP-Wクリップ
	寸法	600mm × 600mm	
試験方法	試験は以下に示す方法によって行う。		
	① 天井面法線方向について、加撃体による衝撃力を試験体に加える。 ② 天井面法線方向についてクリップの接合部に生じた残留変位Dcsを計測するとともに、試験体の損傷の有無および程度を確認、記録する。		
評価方法	すべての試験体で、クリップの接合部に生じた残留変位Dcsが設定した閾値(5mm)を超えず、かつ、試験体に顕著な損傷を生じていない場合に、対象とするクリップの接合部は緊結であると評価する。		

試験前状況(試験装置全景)

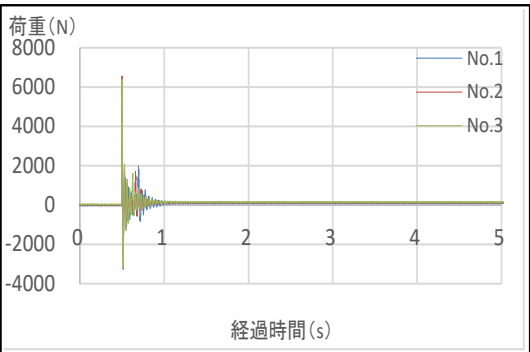


試験前状況(試験体全景)

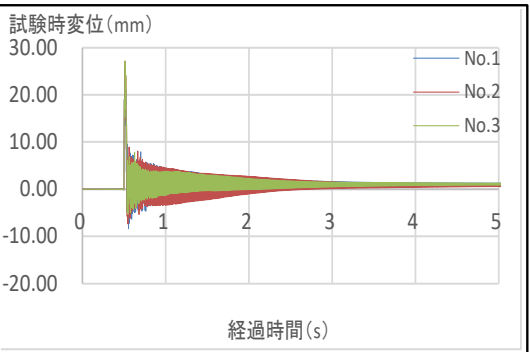


# ◇試験結果

試験荷重時間応答曲線



試験変位時間応答曲線



結果一覧

	No.1	No.2	No.3
最大荷重	6050N	6558N	6389N
残留変位 D <sub>cs</sub>	1.00mm	0.80mm	1.06mm

試験前状況(クリップ近景)

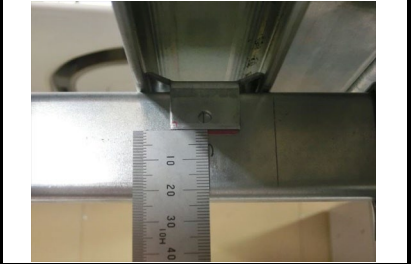


∴ 全ての試験体において残留変位Dcsが5mm以下



RP-Wクリップの接合部は緊結であると評価する。

試験後状況(クリップ近景)



試験日 : 2016/11/14  
試験者 : 下氏 亮介